

出版委員会

出版委員会 報告

委員長 圓山 重直 (東北大学)

幹事 小原 拓 (東北大学)

委員会の現状と今後の方針について、2006年11月25日(土)に委員会を開催するなどして議論した結果、以下の結論を得た。

- (1) 現状の問題点として、
 - ・ スタートしたものの進行が停滞している企画が多い。
 - ・ 任期1年の委員会では、企画立案から出版までの継続的なフォローが困難である。
- (2) 今後の出版委員会のあり方について、以下を部門運営委員会に提案する。
 - ・ 委員会を執筆者主体に構成し、2年程度の任期で継続的に企画の進行にあたる。
 - ・ 企画を完了した後に、次の出版企画と執筆者を選定し、次期の委員会を立ち上げる。
 - ・ 来年度は経過処置として、任期1年の委員会を構成し、この委員会が次期の企画を立ち上げる。
- (3) 今後の委員会における企画のあり方について、以下の方針が適当である。
 - ・ 執筆する強い意思のある著者が執筆したいテーマを選んで企画を立案することが重要である。
 - ・ 共著の場合は、著者間で十分な協議をもち、強いリーダーシップをもつ編者が執筆状況の管理をするべきである。また、場合によっては、企画を委員会で立ち上げたあと出版社に進行を預ける方法も選択する。
 - ・ 講習会資料のテキスト化、CD ビデオライブラリ、きちんと編集された可視化画像集などに加えて、モノグラフの企画も進める。若手の執筆者を開拓することも重要である。
 - ・ JSME のブランドに対する信頼感を背景に、著者の責任感を促し、読者の信頼を得る企画を進める。
 - ・ 毎年新しい本を無理に企画するのではなく、本当に意義ある本のみを出版する。
 - ・ 伝熱だけではなく燃焼や熱物性などバランス良く企画を立てる。